



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社タカチホ
コード番号 8225 URL <https://kk-takachiho.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久保田 一臣
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 寺澤 和宏 TEL 026-221-6677
四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 ー
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績 (2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,847	38.7	353	—	351	—	322	689.3
2022年3月期第3四半期	4,216	12.0	△104	—	△107	—	40	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 325百万円 (701.3%) 2022年3月期第3四半期 40百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	506.91	—
2022年3月期第3四半期	64.22	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	4,676	1,235	26.4	1,942.67
2022年3月期	3,648	910	24.9	1,430.80

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 1,235百万円 2022年3月期 910百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期 (予想)	—	—	—	—	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,100	35.3	260	—	260	—	230	—	361.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	727,500株	2022年3月期	727,500株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	91,370株	2022年3月期	91,350株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	636,131株	2022年3月期3Q	636,182株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料P.3「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	3
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症第8波の感染拡大があるもののWithコロナの取り組みが維持され、社会経済活動の再生が図られました。国内においては感染拡大防止に全力で取り組みながらも国主導の旅行支援策が継続され、海外からの入国制限や水際対策の撤廃・緩和により外国人旅行者も増加しつつあります。しかし、資源価格の上昇による原材料価格の高騰や鎮静が見通せない新型コロナウイルス感染症の再拡大懸念など、先行きへの不安は依然残っております。このような経済情勢のなかで当社グループといたしましては、市場や顧客ニーズの変化を的確に把握し、機会を捉えた商品供給による販売強化と業務の効率化による収益力強化に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は5,847百万円（前年同四半期比38.7%増）、営業利益は353百万円（前年同四半期は104百万円の営業損失）、経常利益は351百万円（前年同四半期は107百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は322百万円（前年同四半期比689.3%増）となりました。

セグメント別業績は次のとおりであります。

①みやげ卸売事業

みやげ卸売事業は、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受けてはおりますが、Withコロナの取り組みとして旅行支援策が継続されたことにより受注も増加し、売上高は4,080百万円（前年同四半期比52.6%増）となり、営業利益は316百万円（前年同四半期比5,082.0%増）となりました。

②みやげ小売事業

みやげ小売事業は、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受けてはおりますが、Withコロナの取り組みとして旅行支援策が継続されクーポンの利用も浸透したことから、売上高は716百万円（前年同四半期比100.6%増）となり、営業利益は87百万円（前年同四半期は50百万円の営業損失）となりました。

③みやげ製造事業

みやげ製造事業は、Withコロナの取り組みが継続され、シフト見直しなど生産態勢の効率化も進んだものの、商品規格の変更に伴う資材廃棄が増加したこともあり、売上高は107百万円（前年同四半期比61.9%増）となりましたが、営業損益は3百万円の営業損失（前年同四半期は47百万円の営業損失）となりました。

④温浴施設事業

温浴施設事業は、資源価格高騰による運営費増加から価格改定を行いました。全国的なサウナブームの継続により利用者数は維持でき、売上高は198百万円（前年同四半期比19.7%増）となり、営業利益は13百万円（前年同四半期比21.0%増）となりました。

⑤不動産賃貸事業

不動産賃貸事業は、長野市内の「ショッピングタウンあおぞら」のテナント管理を中心に営んでおります。このうち前年下期から自社運営していた一部区画を賃貸に変更したことにより、賃料収入は93百万円（前年同四半期比3.1%増）となり、営業利益は31百万円（前年同四半期比0.8%減）となりました。

⑥アウトドア用品事業

アウトドア用品事業は、コロナ禍を背景としたアウトドアブームは継続しているものの商品需要の一巡と競合店の進出や一部販売商品の供給遅れ等の影響により、売上高は446百万円（前年同四半期比20.1%減）となり、営業利益は43百万円（前年同四半期比50.3%減）となりました。

⑨その他事業

その他事業は、ギフト店、飲食店の運営が含まれます。飲食店においては新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和と、長野市における善光寺御開帳の開催により来店客数が増加しましたが、ノンコア事業の見直しを進めた結果、売上高は203百万円（前年同四半期比32.6%減）となり、営業利益は29百万円（前年同四半期比267.6%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,670百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,054百万円（65.2%）増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が509百万円、現金及び預金が326百万円、商品及び製品が220百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は2,006百万円となり、前連結会計年度末に比べ26百万円（1.3%）減少いたしました。これは主に有形固定資産が28百万円減少した一方、投資その他の資産が7百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は4,676百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,027百万円（28.2%）増加いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,719百万円となり、前連結会計年度末に比べ206百万円（13.7%）増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が373百万円増加した一方、短期借入金が245百万円減少したことによるものであります。固定負債は1,720百万円となり、前連結会計年度末に比べ495百万円（40.4%）増加いたしました。これは主に長期借入金が501百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は3,440百万円となり、前連結会計年度末に比べ701百万円（25.6%）増加いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,235百万円となり、前連結会計年度末に比べ325百万円（35.8%）増加いたしました。これは主に利益剰余金が322百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は26.43%（前連結会計年度末は24.95%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました業績予想を修正し、売上高7,100百万円、営業利益260百万円、経常利益260百万円、親会社株主に帰属する当期純利益230百万円を見込んでおります。

なお、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	744,592	1,071,349
受取手形及び売掛金	414,472	923,845
商品及び製品	359,430	580,018
原材料及び貯蔵品	58,499	56,096
その他	39,634	38,736
貸倒引当金	△583	—
流動資産合計	1,616,044	2,670,046
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	623,726	588,768
土地	902,820	902,820
その他（純額）	107,318	113,699
有形固定資産合計	1,633,864	1,605,288
無形固定資産	121,374	115,442
投資その他の資産		
敷金及び保証金	117,768	116,423
その他	172,957	182,797
貸倒引当金	△13,258	△13,813
投資その他の資産合計	277,467	285,408
固定資産合計	2,032,707	2,006,139
資産合計	3,648,751	4,676,186
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	263,033	636,404
短期借入金	951,500	705,760
未払法人税等	17,122	78,870
賞与引当金	14,135	22,514
契約負債	13,998	13,858
その他	252,970	262,119
流動負債合計	1,512,761	1,719,526
固定負債		
長期借入金	895,290	1,396,796
資産除去債務	93,478	94,475
その他	237,020	229,595
固定負債合計	1,225,788	1,720,866
負債合計	2,738,550	3,440,393

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	701,711	701,711
利益剰余金	△612,977	△290,516
自己株式	△179,114	△179,140
株主資本合計	909,619	1,232,054
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	582	3,738
その他の包括利益累計額合計	582	3,738
純資産合計	910,201	1,235,792
負債純資産合計	3,648,751	4,676,186

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	4,216,169	5,847,199
売上原価	3,064,994	4,168,827
売上総利益	1,151,175	1,678,371
販売費及び一般管理費	1,255,767	1,325,311
営業利益又は営業損失(△)	△104,591	353,060
営業外収益		
受取利息	659	14
受取配当金	460	644
受取事務手数料	1,089	968
受取手数料	554	4,816
その他	3,076	2,029
営業外収益合計	5,841	8,472
営業外費用		
支払利息	7,962	8,343
その他	731	1,466
営業外費用合計	8,694	9,810
経常利益又は経常損失(△)	△107,444	351,722
特別利益		
固定資産売却益	18,181	—
助成金収入	74,071	46,049
事業譲渡益	28,181	2,750
その他	2,518	—
特別利益合計	122,953	48,799
特別損失		
固定資産除却損	738	405
特別損失合計	738	405
税金等調整前四半期純利益	14,770	400,117
法人税、住民税及び事業税	10,511	73,406
法人税等調整額	△36,596	4,250
法人税等合計	△26,084	77,656
四半期純利益	40,854	322,461
親会社株主に帰属する四半期純利益	40,854	322,461

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	40,854	322,461
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△217	3,156
その他の包括利益合計	△217	3,156
四半期包括利益	40,636	325,617
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,636	325,617
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症に関する会計上の見積り)

当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定に重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

《セグメント情報》

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	みやげ 卸売事業	みやげ 小売事業	みやげ 製造事業	温浴施設 事業	不動産 賃貸事業	アウトドア 用品事業	計				
売上高											
顧客との契約か ら生じる収益	2,674,812	357,348	66,301	165,730	—	559,064	3,823,256	301,797	4,125,054	—	4,215,054
その他の収益	—	—	—	—	91,114	—	91,114	—	91,114	—	91,114
外部顧客への 売上高	2,674,812	357,348	66,301	165,730	91,114	559,064	3,914,371	301,797	4,216,169	—	4,216,169
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	20,101	—	94,950	—	17,400	—	132,452	155,904	288,356	△288,356	—
計	2,694,914	357,348	161,252	165,730	108,514	559,064	4,046,824	457,701	4,504,525	△288,356	4,216,169
セグメント 利益又は 損失(△)	6,112	△50,814	△47,038	11,435	31,753	87,406	38,854	8,121	46,975	△151,567	△104,591

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ギフト用品事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	みやげ 卸売事業	みやげ 小売事業	みやげ 製造事業	温浴施設 事業	不動産 賃貸事業	アウトドア 用品事業	計				
売上高											
顧客との契約か ら生じる収益	4,080,536	716,897	107,316	198,307	—	446,867	5,549,925	203,289	5,753,215	—	5,753,215
その他の収益	—	—	—	—	93,983	—	93,983	—	93,983	—	93,983
外部顧客への 売上高	4,080,536	716,897	107,316	198,307	93,983	446,867	5,643,909	203,289	5,847,199	—	5,847,199
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	55,215	—	161,615	—	22,005	—	238,836	134,033	372,870	△372,870	—
計	4,135,751	716,897	268,932	198,307	115,988	446,867	5,882,745	337,323	6,220,069	△372,870	5,847,199
セグメント 利益又は 損失(△)	316,729	87,135	△3,659	13,834	31,500	43,456	488,996	29,855	518,852	△165,792	353,060

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ギフト用品事業等を含んでおりません。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来報告セグメントとして開示していた「飲食事業」及び「ギフト用品事業」について、量的な重要性が乏しくなったため「その他」に含めて記載する方法に変更しており、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分により作成したものを記載しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2021年3月期及び2022年3月期連結会計年度において新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の再発出に伴う外出自粛要請等により国内観光客の大幅な減少の影響を受け、主力事業である観光みやげ品に係るみやげ卸売事業、みやげ小売事業及びみやげ製造事業における売上高の減少に伴い営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上したことから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しております。

しかしながら、現時点で同感染症の収束時期について見通しを立てることは困難であります。当第3四半期連結累計期間においても引き続き各種行動制限が解除されていることから国内観光客も増加し、当社グループの主力である観光みやげ品に係る各事業における売上高、収益についても回復基調となっていること、また当第3四半期連結累計期間末の現金及び預金の残高に加え、同感染拡大の長期化に対する備えとして、今後も取引金融機関から引き続き支援を得られる見通しであり、事業資金についても安定的に確保できることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。